

## 文学部哲学科2年 伊藤 万里さん

大学の図書館にある数多くの本の中から、最高の一冊に出会えることを願っております。趣味は観葉植物を育てることです。よろしくお祈りします。



中で、貸し出しの更新や予約ができたのは助かりました。

MyGLIMは、蔵書検索システムGLIM/OPACで利用できる個人向けWebサービスです。Web上での貸出資料の返却期限日の更新の他、貸出中の資料の予約や学外庫・女子大学図書館からの取り寄せ、現在貸出中の図書の確認ができます。

### 図書館を普段、どう使っていますか？

郵送貸出にて、本を大体月に一度借りておりました。

今後使いたい来館型図書館サービス（図書館に来て使えるサービス）は？

### 新入生の皆さんに読んでほしいおススメの1冊は？

『出生前診断の現場から：専門医が考える「命の選択」』

室月 淳（集英社 2020 集英社新書）

請求記号：495A/Mu76s//K 配置場所：法経図・6F開架

OPAC URL：<https://glim-op.glim.gakushuin.ac.jp/webopac/BB01113362>

一年生で倫理を勉強し、その中でさまざまな倫理問題に触れました。中でも強く印象に残ったことが、出生前に赤ちゃんの遺伝子を検査し、障害の有無を確認する出生前診断の話です。出生前診断を受けるといふこと、それは赤ちゃんを産むか産まないかという選択を目の前に行うことと同義です。その選択をする際に、遺伝カウンセラーと呼ばれる方々がカウンセリングを行い、正しい情報を提示し、本人の自己決定のもと検査を行うか否かを決定することが望ましいとされています。

究極の情報を持つ遺伝子の存在が明らかになり、その解析が進むことによって、人間ができることも増えました。医療の発展は私たち人間に大きな恩恵を与えてくれました。羊水から赤ちゃんに障害や病気がないかを確認できるようになったこともその一つです。しかし、赤ちゃんの命を奪うかどうかという選択肢を出生前診断は与えてしまうのだという意見もあります。実際、出生前診断によって与えられるその選択肢の重さを伝えず、ただ出生前診断を行うだけの民間機関も増えてきました。著者は、「出生前診断を行う」という選択の重さをさまざまな形で読者に伝えています。

私たち人間の歴史の中で、悲しいことですが、人種差別に基づく不当な不妊手術、脱胎が行われてきました。障害や病気のある子供は不幸であるとし、活動を行なった団体もありました。その根底に根付くのは優生思想でした。出生前診断には、一歩間違えると国家的な優生主義に陥る可能性を孕む検査であることを、著者は本書の中で何度も書いています。

医療は今後も発展を続けていき、人間ができることがさらに多くなっていくでしょう。しかし、その発展の中で生じる倫理問題から目を背けず、考え続けていくことの重要性を知ることができる一冊です。

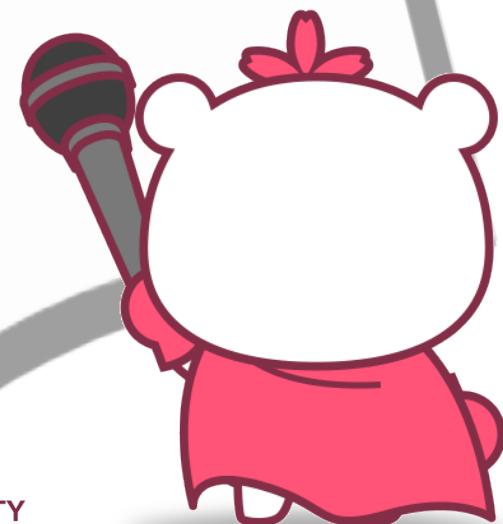
協定校、他大学・他機関利用 学習院大学の図書館だけでなく、ほかの大学の図書館にも立ち入ってみたいです。

学生の皆さんは、学習院大学図書館と協定を結んでいる山手線沿線の大学や五大学の図書館を学生証持参での訪問と利用登録により、閲覧や館外貸出等ができます。協定校にない場合も、大学図書館2階にあるレファレンス・カウンターでの手続きにより他大学に訪問しての閲覧や取り寄せ（有料）ができます。

※令和3年4月現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、協定校の利用を相互に停止しています。

### 最後に、新入生の皆さんに伊藤さんから

大学の図書館は想像以上の量の本が所蔵されており、私もとても驚きました。どのようにして本を選んだらいいのか、どのように利用すればいいのか、新入生の皆様のそんな疑問を一緒に解決できればと思います。



### オススメの非来館型図書館サービス（どこでも使える図書館のサービス）は？

MyGLIMからの貸出更新 コロナ禍で思うように来館できない